



雲南市入間地区

古い校舎を交流拠点に 雪かきや灯油の配達などの活動も支援

平成20年の入間小学校の閉校を機に、地域住民の校舎を残したいという思いを受け、旧校舎を活用した拠点施設「入間交流センター」が誕生。体験型学習ができる宿泊施設やカフェなど交流の場となっています。住民有志による灯油の配達や除雪、草刈りの有償ボランティア活動も始まっています。

これまでの地区のあゆみ

- H17 地域自主組織「入間コミュニティ協議会」を設立
- H17 「放課後子ども教室」を開始
- H20 入間小学校が閉校に
- H23.4 入間交流センターが完成
旧校舎を残したいという地域住民の思いを受け、「入間交流センター」としてリニューアルし、宿泊施設を併設
- H23.4 高齢者サロン「カフェあいあい」がスタート
毎月第2水曜日に開催
- H23.5 地元の有志が「除雪支援隊」を結成
除雪、草刈り、灯油の配達などを実施
- H30 地区計画を策定



入間交流センター



カフェあいあいのランチ

Step 小さな拠点づくりのステップ

step.1 共有 小学校の閉校を受けて

「小学校が閉校になれば地域が寂しくなる」と、地域住民から入間コミュニティ協議会(以降、協議会という)に旧校舎を活用した新たな拠点施設を望む声が上がりました。

step.2 計画 地域の拠点施設を計画

住民からの要望を受け、協議会と雲南市が一体となって活用の検討を開始しました。その頃、雲南市と大学が連携して地域課題を解決する活動をしており、早稲田大学の建築分野の研究室が検討に参加。研究室のノウハウを生かし、住民アンケートやワークショップを通じて、体験型学習ができる宿泊施設の整備計画を作成しました。

step.3 体制 地域住民が連携した体制で

地域住民の交流拠点であり、体験型学習の拠点でもある「入間交流センター」が平成23年に完成。予約受付や清掃など施設の運営は協議会メンバーが、宿泊者の夕食づくりは地元のお母さんたちグループ「ピコット」が担います。



夕食を通じた交流の時間

step.4 実践 福祉を主体とした取組を中心に

高齢者の見守りなど福祉部門を担当する「福祉委員会」が、高齢者のとじこもり防止のためのサロン「カフェあいあい」をスタート。サロンには地区住民はもとより地区外からの参加もあり、幅広い交流につながっています。また、地元の有志で結成された除雪支援隊と連携した雪かきや灯油の配達支援なども行っています。

step.5 持続 活動が続くように

高齢化・人口減少により、協議会スタッフなどの確保も難しくなるなか、入間地区内の組織や団体の様々な世代から約40人が集まって意見交換会を実施。地域住民の声を聞き、今後も地域の課題解決に向けた活動を持続的に行えるように平成30年に地区計画を策定しました。



- 市役所・支所 ● 公民館等 ● 教育機関等
- 医療機関 ● 買い物施設 ● ガソリンスタンド

- 人口 200人(高齢化率 56%)
- 地域の特徴 ・雲南市の南部に位置し、標高が高く冬は豪雪地帯となる
・国道54号線が地域を南北に縦断している

体制図



私たちのやり方 Our Project



雪かき・灯油の配達・草刈りなど 「除雪支援隊」

雪かきや草刈りなど、それまでは近しい人同士の助け合いでなんとかしてきたことが、人口減少や高齢化によりできなくなってきました。雪深い地域のため、積雪時の外出に困る方も多く、課題意識をもった有志が声を掛け合って、有償ボランティアグループ「除雪支援隊」を結成。多いときには年間40回も出動します。

まちのひとの声



除雪支援隊 坪倉さん
「今年も頼みます」一人暮らしのお年寄りからお願いされたら、何とかしなければとの思いでやっています。

手作り料理も楽しいサロン「カフェあいあい」

高齢者サロンも兼ねた「カフェあいあい」を月に1度開催。お楽しみは「ピコット」の手料理「あいあいランチ(500円)」。地元の旬の食材を使った郷土料理が味わえます。口コミが広がり地区外から子ども連れのママたちも訪れ、にぎわっています。



調理する地元のお母さんたち

スクールバスからそのまま 放課後子ども教室

スクールバスで帰ってきた小学生から「ただいまー!」の声。夕方になると入間交流センターは放課後子ども教室となり、地域の子どもたちを見守ります。子どもたちは年に1度、1週間交流センターから学校に通います。通学合宿を通し、地域の方とのふれあいの中で子どもたちは自主性を育み、貴重な学びの場となっています。

